



獨協埼玉 中学校・高等学校

〒343-0037 埼玉県越谷市恩間新田寺前316 TEL 048-977-5441 URL www.dokkyo-saitama.ed.jp

Access
 電車 東武スカイツリーライン「せんげん台」下車徒歩約20分
 バス 西口より朝日バスで約5分

PICK UP DATA

共学校	創立 41年	生徒数			クラブ活動			文理別進学		内部進学率	外部進学率
		男子 783人	女子 701人	運動部 25	文化部 15	同好会 11	文系 65%	理系 35%	21%	79%	



[推薦制度]
 獨協大学への推薦としては、単願推薦、併願推薦、獨協コースがあり、全体の2割を占めています。原則として高校3年間の内申書で一定の基準を満たしたものについて推薦資格が与えられます。

ココが始まり!
教育理念
「自ら考え、判断することのできる若者を育てる」

教育理念に則り、時間をかけて個々の潜在能力を引き出し、主体的に考えるための「知的土台」を作る。

ココに注目!
**「知的土台」をしっかりと築いて
 自分の道を見出し、人生を楽しめる人に**

今からちょうど130年前。ドイツをはじめ、ヨーロッパの文明文化を学ぶことを目的に設置された獨逸学協会学校が同校の源です。その獨逸学協会学校の初代校長を務めたのは、哲学者・西周でした。ちなみに、「哲学」という言葉は西周が作ったものとされています。

成績によるクラス分けを行わず、一つの価値観に偏ることのない全教科履修主義を貫く同校。基礎学力の充実を図るとともに、実体験を軸とした幅広い教養を身につけさせる全人教育を展開しています。「いろいろな知識を授けて大人にしなければなりません。知的土台を作れば、主体性を持った時にどんどん伸びていきます」と、校長の尾花信行先生。知的土台とは教科学習だけでなく、総合学習をはじめとする多様な実体験も指します。例えば、中1の稲作体験、中2の職業体験、中3の福祉体験などです。ところで、コロナ禍での制限があるため、昨年は中1に代わって先生方が田植えを行いました。「みんなが登校したら引き継ぎますよと、動画を撮って配信したんです。すると、登校してきた中1のある生徒が私を見て、「あ、田植えのおじさんだ」と(笑)。同校の雰囲気伝わってくるエピソードです。

コロナ禍でもう一つ。「今春の大学入試結果は厳しくなるだろうと予想していたのですが、むしろ例年以上の頑張りを見せてくれました」と校長。培ってきた知的土台があるからこそ、高3生たちは自覚と主体性を持って自ら勉強した。大学合格実績の数字以上に、そこに同校の教育の成果が垣間見えます。校長は象徴的な例を話してくれました。「以前、成績上位の生徒が調理の専門学校に進学したことがありました。目指す道を見つけたのです。その後、彼は一流ホテルのシェフになり、海外大使館の専属のシェフにもなり、見事に夢を実現させました」。自分が本当に望むことを見つけてほしい。同校の変わらぬ願いです。だから、見つけるための種を随所に散りばめているのです。「生徒たちには、自分の人生を楽しめる人になってほしいですね。時には競争もあるかもしれませんが、でも、そのような時こそ、周りの人に気を配り、自分の在り方をしっかりと見極められる人になってほしいと願います」

ココがちがう!

教養を深め、学問研究の基盤を作る。
高大連携を実践する「獨協コース」



高3で進路別に5コースに分かれますが、その一つが「獨協コース」。このコースでは獨協大学への推薦入学資格を保證されるほか、本格的な高大連携教育の下、3つのプログラムを実践します。①「対話」中心の授業②「読書課題」…年間30冊の課題図書を読み込み、作成したレポートを高大の教員がチェック。③「卒業論文」…高大の教員がチェック。また特筆すべきは、全員が学園祭で「ギリシャ悲劇」を上演することです。演技することは論文を書くのと同様、どう表現するかを体で理解することにも繋がるといいます。そして、その姿は他の生徒に深い感銘と強い刺激を与えているそうです。

ココで活躍! 活躍する先輩たち

Voice



ヤフー株式会社
 トラベル統括本部 プロダクション本部
 関口 智大 さん (2012年卒業)

机上で学ぶだけではなく、実際に見て、触れる機会が多かったです。授業では生徒間の競争を促進する仕組みも多かったので、自分が一番になれる得意分野をつくらうと、数学と情報はとくに頑張りました。同時に、生徒同士の交流を深める行事も豊富なため、今でも同級生と会う機会は多く、これからも大事にしていきたいです。現在は宿泊施設の予約をするWebサイトの運営およびデータ分析の仕事をしています。目まぐるしく進化し続ける業界のため、貪欲に新しい情報を吸収し、さまざまな分野で経験を積み、幅広いスキルを身につけたフルスタックエンジニアを目指したいと思っています。



埼玉県環境部水環境課
 中前 千佳 さん (2011年卒業)

型にはめることなく、生徒一人ひとりの自主性を重んじる学校です。現在は埼玉県の川の利活用や持続可能な環境の保全を推進する仕事をしています。在校中、日本史の先生とお話するなかで社会学分野への関心が深まりました。それが筑波大学進学への選択に繋がりと、ゼミでの活動が現在の自分の軸になりました。大学進学という人生の最初の大きな選択において、大変参考になるアドバイスをいただいた先生にはとても感謝しています。在校中に身につけた主体性を持ち続け、初心を忘れず、人のためになる仕事をしていきたいと思っています。